

いる。

留学制度

留学生交換制度やその単位認定の適合性の項目（p.84）に既述のとおり、留学という生涯忘れ難い実体験を通じて身につけた外国語によるコミュニケーション能力や異文化理解は、生涯にわたって学生の教養と「生きる力」になることは明白である。

【点検・評価】 【課題・方策】

前項及び第4章「学生の受け入れ」の章で述べるとおり、社会人入学生は今のところ過去3年間に全学で9人と少ないために、どの学科にどの社会人が在学しているかは、教員によく周知されている。社会人学生は年齢が高いために教員とも話しやすく、入学時には履修計画などについて教員から細かい指導を受けている。年齢の高い社会人学生に対しても授業では基本的には一般学生と区別しないが、前項にも既述のとおり、学生数が増えた場合には不平等にならないよう、ある基準を定めた上で個別対応のマニュアルを作成する必要がある。

12 正課外教育

1) 正課外教育の充実度

(C群:正課外教育の充実度)

本学における正課外教育として特筆すべきものは(1)アssenブリアワーの存在である。またその他には、主として、(2)キリスト教センター、(3)学生部、(4)キャリアサポートセンターなどの部署を中心に正課外教育が行われると同時に(5)NPO活動も行われている。

(1) アssenブリアワー

【現状の説明】 本学では開学直後から水曜日の2時限をアssenブリアワー（AH）として設定し、大学の理念を体現するために宗教委員会（現キリスト教センター委員会）主導でプログラムを企画し、大学全体の行事を行ってきた。学生と教員とのコミュニケーションの重要な場として、また学生の自己表現の場として重要性を増しつつ今日に至っている。アssenブリアワーで催されるプログラムは主に以下の3つに分類される。第1は大学全体の理念や建学の精神との関連で行われるキリスト教関連行事、学長講話など、第2は学生部やキャリアサポートセンターなどが全学部・学科の学生を対象として企画するプログラム、第3は各学部・学科の教育活動との関連で実施される独自のプログラムである。現在は、このうち学部や学科企画のプログラムが量的には多くなってきており、学部・学科の積極的な取り組みによってそれぞれ個性的な運営がなされ、AHが意義あるものとなっている。

2006年度 春学期アセンブリアワー実施予定

※【 】内は教室番号です。

	政治経済学科	コミュニティ政策学科	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科	人間福祉学科
4月12日	学長講話【チャペル】<11:00～11:30>					
4月19日	成績優秀者表彰、英語成績優秀者表彰(2～4年生対象)【4401教室】					
	自己発見レポートフォローアップセミナー(1年生対象)					
4月26日	学生会総会【教授会室】 ※FOで選出された「代表委員」が必ず出席					
	オーストラリア 環境スクール 【教授会室】	学生相談日 【各教員研究室】				
5月3日	憲法記念日(祝日)					
5月10日	学科講演会 「教職をめざすあなたのために」(小川先生) 【4401】	学生相談日 【各教員研究室】	留学生交流会 【4号館会議室】	ビデオ上映会 (1・2年生対象) 【7401】	学生相談日 【各教員研究室】	
5月17日	政経塾① 帰朝報告会 (梅津先生) 【7201】	学生相談日 【各教員研究室】	海外研修 説明会 【4301】	講演会 (D.バーガー先生) 【7401】	講演「セクハラと DVについて」 講師：山田麻有美先生 【4401】	進路ガイダンス 【1406】
5月24日	キリスト教講演会(2年生～4年生)【チャペル】					
5月31日	トーク&コンサート(1年生)【チャペル】					
6月7日	学科講演会 「公務員をめざすあなたへ」 大塚健司先生 【7201】	TOEFL-ITP 【教授会室】	日本文化紹介 日本文化学会総会 【7401】	<2年生対象> ゼミ紹介・来年度保育実 習Ⅲ、Ⅳの説明 【4301】	ボランティア 合同部会 【4号館 4階会議室】	
6月14日	政経塾② 【教授会室】	講演: デートDVって何? 【7301】	専門演習登録 【2401】	講演会 【7401】	<3年生対象> 実習に備えて① 【4301】 <1年生対象> 教職セミナーガイダンス① 【4401】	講演: デートDVって何? 【7301】
	第6回 ジョブフェア					
6月21日	学生相談日 (1・2年生対象) 【8201渡辺研究室】	学生相談日 【各教員研究室】	ゼミ研究発表会① 【7401】	<3年生対象> 実習に備えて② 【4301】 <1年生対象> 教職セミナーガイダンス② 【4401】	実習ガイダンス① (1・2年生) 【7301】	
	ジョン ウィット氏講演会(チャペル)					
6月28日	選択科目履修 説明会 (1年生) 【7201/7202】	講演会 「おもしろそうか ら始まるNPO」 【7302】	ゼミ交流会 【各教員研究室】	ゼミ研究発表会② 【7401】	<4年生対象> 実習に備えて③ 【4401】 <1年生対象> 教職セミナーガイダンス③ 【4301】	北欧福祉研修 報告会 【7301】
7月5日	教会と大学との懇談会					
	CSCガイダンス(3年生対象就職活動キックオフガイダンス)※詳細はCSC掲示板を確認してください。					
7月12日	専門演習説明及び 予備登録 (2年生)【1202】	学科講演会 「人が変わればまち が変わる」 【4401】	TOEIC-IP 【教授会室】	専門演習説明会 (2年生)【7201】 アドバイザー 面接・受験注意 (1年生) 【7202】	<全学年対象> 音楽会 【チャペル(予定)】	学生相談日 【各教員研究室】

※ は「全学科対象」の行事です。

※ で囲んである行事は他学科の学生でも参加可能な「オープンプログラム」です。

2006年度 秋学期アッセンブリアワー実施予定
 ※【 】内は教室番号です。

	政治経済学科	コミュニティ政策学科	欧米文化学科	日本文化学科	児童学科	人間福祉学科
9月27日	学生相談日 【各教員研究室】	学生相談日 【各教員研究室】	学生相談日 【各教員研究室】	日本文化探訪ツアー 説明会【7401】	アドバイザークラス別 懇談会(1年生) 【各教員研究室】	学生相談日 【各教員研究室】
就職講座(3年生対象)※詳細はキャリアサポートセンター掲示板を確認してください。						
10月4日	学生相談日 【各教員研究室】	アディショナル・レクチャー 「国際ボランティアについて」 ～ボランティアって、何～ (早瀬 昇氏) 【7401】		伝統芸能発表会 【体育館2階】	アディショナル・レクチャー 「国際ボランティアについて」 ～ボランティアって、何～ (早瀬 昇氏) 【7401】	
就職講座(3年生対象)※詳細はキャリアサポートセンター掲示板を確認してください。						
10月11日	学生相談日 【各教員研究室】	上級生による ゼミ相談会【7201】 ／ 学生相談日 【各教員研究室】	ゼミ交流会 (2～4年生対象) 【各教員研究室】	卒論中間発表会① 【7号館1階】	実習事後指導① (3年生)【4301】 海外児童学 研修報告会 【4401】	学生ボランティア 合同説明会 【4号館4階会議室】
10月18日	「メディア政治に惑わ されるな!-日本の 政治経済の現実」 (金子勝氏) 【チャペル】	上級生による ゼミ相談会【7201】 ／ 学生相談日 【各教員研究室】	ハロウィーン 【2号館4階全教室】	卒論中間発表会② 【7号館1階】	実習事後指導② (3年生)【4401】 実習事前指導 (3年生)【4301】	学生相談日 【各教員研究室】
10月25日	秋のキリスト教週間					
11月1日	ヴェリタス祭週間					
11月8日	オーストラリア環境スクール 報告会 【7202】	学生相談日 【各教員研究室】	TOEFL-ITP 【教授会室】	日本語教育実習 報告会【7301】	実習事後指導③ (4年生) 【4301・4302】	第2回実習ガイダンス 【7302】
11月15日	11/22 プレプログラム 【7202】	講演会 「災害ボランティアの実態」 【教授会室】	卒論中間発表会 【7302】	観劇会説明会 【4401・2401】	実習事後指導④ (4年生) 【4301・4302】	進路ガイダンス (1年生) 【7301】
11月22日	政治経済学部共通プログラム 「多重債務者問題の救世主 宇都宮弁護士研究」 【チャペル】		海外活動報告会 【7302】	専門演習Ⅱ説明会 【4401】	人間福祉学部共通プログラム 「発達に遅れのある子の親からの専門 家へのメッセージ」 海津敦子氏 【7401】 講演会「作って遊ぼう」 (1年生対象) 【7201】	
11月29日	秋の留学生交流会(仮)					
12月6日	講演会 姜 尚中氏 【チャペル】	卒業論文 中間発表会 【7102・7103】 ／ 専門演習ゼミ説明会 【7201】	キャリアガイダンス 【2401】	講演会「災害と社会」 北原系子氏 【7401】	実習ガイダンス① (1・2年生) 【7301・7302】	第3回実習ガイダンス (2年生) 【7202】
12月13日	卒業論文発表会 【1202】	専門演習ゼミ 説明会 【7201】	人文学部共通プログラム 「薩摩琵琶とリュート」(演奏とお話) 【チャペル】		卒業論文 中間発表会 【7301】	就職ガイダンス (1～3年生) 【7202】
12月20日	自己表現入試					
1月10日	講演会(予定) 牧原議員 【7202】	専門演習ゼミ 説明会 【7201】	学生相談日 【各教員研究室】	日本文化紹介 【7401】	実習ガイダンス② (1・2年生) 【7301・7302】 実習事後指導 【4301】	アドバイザークラス別 懇談会 【各教員研究室】
1月17日	学生相談日 【各教員研究室】	教務デー ゼミ交流会 【4401・4号館会議 室】	TOEIC-IP 【教授会室】	教務デー 【4号館3階】	アドバイザークラス別 懇談会(1年生) 【各教員研究室】 実習事後指導 【7401】	帰国報告会 (増田先生) 【7202】

※ は「全学科対象」の行事です。
 ※ で囲んである行事は他学科の学生でも参加可能な「オープンプログラム」です。

【点検・評価】 AHは、開始当初より崇高な理念と理想を迫る形で実施されてきているが、現実の課題としては以下のことがあげられる。第1には学生・教職員等出席者の確保である。出席点や単位取得と関わりがないために学生集めに大きな労苦が払われているのが現状である。第2は運営上の問題である。AHは毎週行われるので充実したプログラムを開発

しなければ学生の参加を期待することはできない。このために授業と組み合わせて出席を取るなど、授業の一環としてのプログラムが増えつつあり、大学の理念の浸透というAH本来の利用法からは離れる傾向がある。第3にはこのこととも関連して、実務的・実用的なプログラムが増えつつあることである。就職に関連するガイダンスや企画はキャリアサポートセンターとしては毎週でも組みたいプログラムであるが、このことによりAHの本来の目的が薄れつつあるといえる。

【課題・方策】 AHの設置当初はプログラムの多くはキリスト教関連の企画で占められていたが、AHの時間帯そのものが通常の教育活動にとって極めて有効であることから、この時間を授業、あるいは日常の教育活動に利用したいという意見は常に出される問題である。現在、AHでは、大学の理念と関わる行事として、春・秋のキリスト教週間の礼拝、講演会、音楽会、さらにはクリスマス礼拝や創立記念礼拝、学長講話などが実施されている。しかし、単位を与えずに学生を集め、建学の精神や大学の理念の浸透を図ろうという試みは、理想だけではなかなか実行困難な状況である。大学の理念やキリスト教に関するプログラム以外の多くのプログラム作成のあり方について検討すべき時期に来ている。

(2) キリスト教センターの取り組み

【現状の説明】 キリスト教センターでは、本学の建学の精神であるキリスト教の伝統と精神に基づいて、全人格的教育に取り組んでいる。その活動は、具体的には主に以下の項目に分けられる。

① 全学礼拝

本学の生命的な源泉である礼拝は、大学チャペルにおいて火曜日から金曜日まで10時20分より30分間行われ、毎回100名余りの学生が出席している。チャプレンやキリスト者である教職員、外部牧師が聖書に基づいた奨励を行ない、学業の合間に心静かに人生について考えるひと時となっている。

② フレッシュマン・オリエンテーション

入学直後に新入生は、学科別に学外の施設において行われる1泊2日のフレッシュマン・オリエンテーションに参加する。礼拝、アドバイザー・グループ別懇談会、学科についてのガイダンス、親睦会などのプログラムがもたれる。上級生による学生実行委員会が編成され3ヶ月余りをかけて準備するが、準備と運営に関わる経験を通して学生実行委員にとっても人間的な成長の場となっている。

③ リトリート

各学期の終わりに、リトリートと呼ばれる2泊3日のキャンプが行なわれる。自由参加であるが毎年80名近い多くの学生や教職員が参加している。あわただしい日常を離れ自然の中で、聖書や人生についてじっくりと語り合い、心の修養の時がもたれる。礼拝、

教員による講演、学生による発題、グループ別ディスカッション、レクリエーション、キャンプファイヤーなどのプログラムを実施している。

④ キリスト教週間の行事

春学期（5月末）と秋学期（10月末）に一週間ずつキリスト教週間として、キリスト教に関連するプログラムが企画される。主な行事は講演会や音楽会である。講演会では学外の著名な講師を招き、音楽会では一流の音楽に触れる機会となっている。他に映画鑑賞も行なっている。

⑤ クリスマス関連の催し

クリスマスは、本学においてキリストの誕生を祝する特別な時であり、クリスマスツリー点火祭やクリスマス礼拝が行なわれる。クリスマスツリー点火祭は11月下旬の夕方に近隣の住民も含めて毎年千人以上が集まり、本学の一大イベントとなっている。この日よりクリスマスツリーとして本館前の大きな樹に光が灯され、クリスマスのイルミネーションによってキャンパスはクリスマス一色となる。12月中旬のクリスマス礼拝では、キリストの降誕劇（ページェント）や音楽による讃美を行なっている。

【点検・評価】 キリスト教センターは、キリスト教精神を養う様々なプログラムを通して、学生の精神的また霊的な教育に取り組むという任務を負っている。大学の礼拝は、霊的次元の成熟を目指す教育プログラムの中心に位置するものである。入学直後に新入学生が全員参加するフレッシュマン・オリエンテーション（F. O.）では、キリスト教の学風に慣れ、学科の教員や学友と交流をもつ場として大学生活を始めるにあたり良い導入教育となっている。毎学期の終わりにもたれるリトリートは、自由参加にもかかわらず毎年多くの学生が参加していることが示すように、学生に好評である。教職員と学生が3日間豊かな自然の中でじっくりと人生について語り合い交流を深めるリトリートは、本学の全人格的教育の場として重要な意味を持つ。キリスト教週間の行事やクリスマスの催しを通して、キリスト教精神やキリスト教文化を学ぶ良い機会を学生に提供している。

【課題・方策】 キリスト教センターの全人格的教育の取り組みに、いかにより多くの学生が興味もち積極的に参加できるかが今後の課題である。キリスト教週間の行事やクリスマス関連の催しにはまだ工夫すべき余地が残されている。そのためには多くの教員や学生達が企画や準備の段階から積極的に関わる必要がある。

(3) 学生部の取り組み

【現状の説明】 学生の中には、多様な能力の学生、幼稚で社会性の乏しい学生、目的意識を喪失している学生、悩みを抱えた学生もあり、学生部はこうした学生の個性に応じた支援に苦心している。課外教養プログラムの取組みには、サービス型、体験型、自立支援型、コミュニティ形成型などのタイプがあるが、本学でも、学生の自主的活動に任せているだけ

第3章

学士課程の教育内容・方法等

では、社会的な人格形成や自立といった学生の成長を図ることは難しいので、積極的に自らを語りあうキャンプや人生の目的を考えさせる講演会を企画している。個の発達支援の観点から、課外活動に参加しない学生にも参加の機会を提供している。また、キャンパスに留まりにくい留学生に提供するプログラムでは、留学生と日本人学生の宿泊を同室にするなど、日本人学生との交流、他者との連帯感や共有能力、責任感の育成、自己発見を促す仕掛け作りを行い、参加者から高い満足が得られている。以下に事例を述べる。

① 留学生スキーツアー

本学では、毎年2月に、留学生、日本人学生、教職員によるスキーツアーを実施している。留学生と日本人学生を同室にして、異なった価値観や責任感を共有しながらスキー技術を習得させると、2泊3日ではあるが、非常に密接な人間関係が構築でき、参加者の人間関係満足度は大変高くなっている。仲間に入れられないような参加者に対しては、学生相談室相談員や留学生専門相談員が対応している。参加者は毎年増加しており、良い正課外教育の場となっている。

② 課外教養プログラム

毎年、手話講座、点字講習会、簡単料理教室、護身術講習会、手芸講座等、正課では与えられない技術習得や芸術系のプログラムを実施し、好評を博している。学生のニーズを把握するためのアンケートを実施して、学生の関心度の高い企画を常に検討しながら実施している。

③ 課外教養セミナー

学生生活上重要と思われる事柄について、学外講師を招き講演会を実施している。たばこや薬物に関する講演は、毎年実施しているが、他に、性感染症や望まない妊娠が惹き起こす幼児虐待、簡単に手に入る覚せい剤の問題など、学生の関心の拡がりに応じて講演内容を拡大している。また、キャンパス・セクシュアル・ハラスメントに関する講演会も実施している。

④ クリーンキャンパスキャンペーン

学生の体験清掃の実施、昼休み時間のノースモーキングタイムの呼びかけ、たばこタワー（たばこの吸い殻のオブジェ）の展示など、春と秋に各一ヶ月間学内美化活動を実施している。これは、文化会連合の有志学生と学生部で行うイベントである。毎回100名程度の学生が体験清掃に参加している。

【点検・評価】

学生の他者との繋がりが希薄化し、孤立が進んでいるので、留学生スキーツアー、課外教養プログラム、課外教養セミナーなどによって、課外活動に参加しない学生に正課外教育の機会を提供することは意義のあることであり、一定の成果を上げている。しか

し限られたスタッフで企画運営をしているので、他大学と共催するなど、内容の濃い体験型プログラムの実施に向けた組織作りが求められる。また、ボランティア活動などの積極的支援の拠点としてボランティアセンターの設置も検討するべきであろう。

【課題・方策】 コミュニケーション能力や人間性を涵養し、人間関係を構築するためには正課外教育の充実は欠かせない。社会の要請に応え得る人間力を兼ね備えた人材育成が求められている昨今、自主性・協調性を涵養する場として、広く一般学生をも視野に入れた企画の強化が必要である。特に、エネルギー不足と思われる学生を対象に、自己の生きる力を再発見させる体験型プログラムを野外で行う必要性があり、実施に向けた取組みが望まれる。さらに、自主的活動の促進のためにボランティア活動支援の拠点としてボランティアセンター設置の検討を具体化したい。

(4) キャリアサポートセンターの取り組み

就職指導全体に関しては10章「学生生活」の項目に記述し、本項目では、正課外の「教育」に関わる部分のみについて点検・評価をすることとする。

【現状の説明】 キャリアサポートセンターでは、アセンブリアワーを利用してキャリア教育を行うとともに、各学科のキャリア教育を支援している。

① キャリアサポートセンター主催のキャリア・プログラム

春学期のプログラム

4月早々に1年次生を対象に「自己発見レポート」、2年次生を対象に「自己プログレスレポート」、3年次生を対象に「キャリアアプローチ」を実施する。その後、学年ごとにフォローガイダンスを行い、その年の目標を立てさせている。特色あるプログラムとしては3年前から全学年を対象に「しごと発見シリーズ」を企画し、学生たちが仕事のイメージを描く機会を設けている。2005年度に取り上げた「しごと発見シリーズ」は、「医薬品業界 MR」「商社業界 商社マン」「ブライダルプランナー 起業家」等の仕事を理解させ、目標を持たせる企画であった。この他に資格取得ガイダンス、公務員ガイダンスを行い、学内で開講する資格講座の紹介を行う。一方、就職活動継続中の4年次生を支援するプログラムとして、学内で企業の採用試験の第一次選抜を行う「ジョブフェア」を実施している。2005年度には、学生がこの「ジョブフェア」に自信を持って参加できるよう、前もってヤングキャリアセンター埼玉の講師により就職活動サポートガイダンスを行い、本番に臨ませた。

秋学期のプログラム

秋学期には、水曜日に15回にわたって3年次生のための就職ガイダンスを行う。15回中4回はキャリアサポートセンターの職員が行い、残りの11回は外部講師に指導を依頼している。就職ガイダンスは、本来、小グループで行う方が良い効果を出せるが、す

すべての小グループ毎に指導者を配置することは人数的に不可能なので、ガイダンスで効果をあげるために、既に内定を取得済みの4年次生を各学科から平均2名ずつ選び、研修を受けさせて、3年次生の指導を手伝ってもらっている。プログラムとしては「履歴書・エントリーシートの書き方」「業界・会社研究」「面接のマナー」等で、3年次生は就職活動を終わったばかりの先輩からアドバイスを受けている。また、就職活動の実力をつけるために、約10名でグループを作り、「内定GET講座」を行っている。採用試験では本来他大学の学生と競うことになるので、2年前から内定GET講座に他大学2校に参加してもらい、「模擬面接」「グループ・ディスカッション」「模擬会社説明会」を共に体験させるようにしている。

② 学科企画のキャリアガイダンス

学部・学科によってはキャリア形成をキャリアサポートセンター主導で画一的に行うことが難しい場合もあるので、学部・学科が独自に企画するキャリアガイダンスの支援も行っている。指導は原則としてキャリアサポートセンターの職員が行うが、要望が水曜日のアッセンブリアワーの時間帯に重なることが多いので、その場合は外部の講師に指導を依頼している。

③ 資格取得講座の実施

開学当初から資格取得講座を実施しているが、その内容は少しずつ変化している。過去には宅建・ビジネス実務法務・ファイナンシャルプランナーなどの講座も開かれていたが、現在では、秘書・日商簿記・日商販売士・カラーコーディネーター等の講座を開講している。講座の指導は外部業者に委託しているが、合格率の目標を全国平均とし、合格率が極端に低い場合は業者を代えることを伝え、緊張感を持って指導に当たらせている。

基礎力養成講座の実施

2001年度より、3年次生の7月初旬から10月下旬の間に、基礎力対策講座を実施している。講座の内容は「企業採用試験・公務員試験」基礎力対策で、企業採用試験向けにはSPIを中心に20コマと、公務員試験を目指す学生のためにさらに60コマにわたり勉強の機会を設けている。

④ 公務員試験対策講座の実施

学生の入学時の進路希望調査によると公務員を希望する学生が多いので、「公務員対策講座」を開講している。これは基礎力養成講座の受講者と受講者以外で公務員講座受講を希望する学生を対象に選抜試験を行い、40名を目処に開講するものである。

開講時期は11月中旬から6月中旬で、延べ94コマを開講する。受講料については、学生の負担を軽減するために、業者から提示された金額の20%を大学が負担している。

それでも期間が長いために途中で落伍する者もあることから、公務員試験の一次試験に合格した者には40%の褒賞金を出し、二次試験で名簿に記載された場合にはさらに40%の褒賞金を与え、意欲が持続するようにしている。

【点検・評価】
【課題・方策】

資格取得講座を含め各講座において、意欲的に取り組んでも基礎学力がないために良い結果を得られない学生が目につく。キャリアサポートセンターが行う「基礎力対策講座」は3年次生が対象であるが、3年次から基礎学力をつけるのでは限界がある。基礎学力は早期に各学科で付け、3年次の段階では応用力を付ける講座を実施し、さらに公務員講座に繋げる必要がある。

また、アッセンブリアワー（水曜日2時限）にはキャリアガイダンスや就職ガイダンスを実施し易い。しかし、この時間帯は他のプログラムと重なるために、魅力のない内容だと学生が集まらないので、さらに工夫が求められる。そこで、AHの全学的な企画・調整を行っているアッセンブリアワー委員会とプログラムについて擦り合わせを行い、キャリアサポートセンターの重要な企画に競合するプログラムを入れないよう調整を依頼している。特に秋学期に行う3年次生の就職ガイダンスは就職活動の準備として大切なので、キャリアサポートセンターのプログラムを最優先してもらい、混乱を避けている。そして就職ガイダンスよりも学科のプログラムを優先させなければならない時は就職ガイダンスをビデオに収録し、後日活用できるようにしている。

さらに、取得単位数が少ない学生が、就職ガイダンスに出席しなければならないにもかかわらず、自分は卒業できないので関係がないと考え、就職プログラムに参加しないことも問題である。これらの学生の多くは学部・学科の企画にも参加しておらず、この対策について考えねばならない。

(5) NPO活動

NPO活動についての記述は第9章「社会貢献」にもあるが、本章では、学生の正課外教育に限定して記述する。

【現状の説明】

本学では、学生の人間的成長、コミュニケーション能力の向上、考える力や自主性・積極性の醸成・強化を目的として、従来から盛んであったボランティア活動を踏まえて、課外活動・地域活動の活性化を図っている。その実現のため、地域社会に開く学校の窓口として、全学校法人の協力を得て設立されたNPO法人「コミュニティ活動支援センター」の埼玉支部を最大限に活用している。同支部は、地域の諸組織への参加を学生に呼びかけるとともに、地域のまちづくり協議会の一員として自ら地域活動を企画し学生に提供している。さらに学生の自主的な課外活動を支援している。具体的には、ホテル再生活動、地域の祭りへの参加、大学周辺の川の調査、清掃活動、蕎麦作り、野菜作りとその販売など、多種多様な課外活動と地域活動を提供あるいは支援している。また、校内での助け合い活動を促進するために、同支部が事務局となり地域通貨「デナリ」の

第3章

学士課程の教育内容・方法等

普及を図っている。

【点検・評価】 地域住民との交流は、学生にとって実社会の良い勉強である。本業の仕事をやりくりして、夜間や休日に地域活動を行っている地域住民と接する時、学生は、授業では見せない真剣さを顔に表している。地域の新しい祭りである「ふれあいフェスタ in 宮原」や、まちづくり協議会の活動において、ある部分の仕事を任され、それを実行することにより、責任感が高まり、自ら考える力がつき、それによって行動力や積極性が向上した学生が見られた。例えば、鴨川や逆川の調査では、自ら問題を見つけ、それをどのように解決すべきかを考える良い機会となった。ホテル再生活動に関しては、ホテルを育てるためのせせらぎを作り、その維持に積極的に関わっている。さらに他の学生や住民がホテルを愛するように、NPOの学生スタッフが自主的にマスコットキャラクターを創作し、ホテル鑑賞会の来場者にキャラクター入りの手作りうちわを配るなどの活動を行っている。これらは、当初、全く予期していなかった学生の自主的な活動である。

【課題・方策】 NPO法人に属している学生は、種々の活動を行う際に、精神的、資金的な支援を受けているが、他のボランティア活動に携わっている学生グループはそうではない。今後、このようなグループに対しても、必要に応じて支援する仕組みを形成することが検討課題である。